

20日考協第140号

2021年3月2日

国土交通大臣	赤羽 一嘉 様
文部科学大臣	萩生田光一 様
文化庁長官	宮田 亮平 様
東京都知事	小池百合子 様
東京都教育委員会教育長	藤田 裕司 様
港区長	武井 雅昭 様
港区教育委員会教育長	浦田 幹男 様
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長 深澤 祐二 様

一般社団法人日本考古学協会

会長 辻 秀人

「高輪築堤跡の全面保存を求める会長声明」の送付について

日頃より、本協会の事業推進にあたりご理解、ご支援を賜り御礼申し上げます。

さて、現在東京都港区高輪一帯で進められている「品川開発プロジェクト」にともなう事前の発掘調査において検出された高輪築堤跡は日本の近代化を具体的に物語る存在であり、世界史的に見てもアジアの近代化の過程を示す上で欠くことのできない稀有な遺跡です。

日本考古学協会では本遺跡の重要性を強く認識し、開発計画の抜本的見直しと高輪築堤の全面保存を目的として、2021年2月28日の理事会において、3月2日に会長声明を発出することを議決いたしました。

貴職におかれましては、適切な措置が講じられますよう要望すると同時に、本協会としても関係機関と協力してこの問題に取り組む所存ですので、なにとぞ、よろしくお願い申し上げます。

記

1 提出書類

別添のとおり 1通

以上

高輪築堤跡の全面保存を求める会長声明

明治5年(1872)、新橋―横浜間に日本最初の鉄道が敷かれました。日本が世界に誇る鉄道文化はここから始まったのです。それは「文明開化」と呼ばれた、我が国の近代化における最初期の大事業でした。そして、東アジアにおける最初の鉄道として、世界史的な観点からも計り知れない意義を持つものでした。

今東京都港区高輪一帯で進められている「品川開発プロジェクト」にともなう事前の発掘調査において、その鉄道の土堤が現れました。東海道に平行した高輪付近2.7kmの区間は、日本の伝統的な技法にイギリスの先進技術を加えた最先端の土木工学により、世界的にも珍しい海上築堤という方法で造られました。埋め立てによってかつての海岸線は沖に延び、築堤は地表下に隠れましたが、2019年までの約1世紀半、東海道線・京浜東北線・山手線は基本的にこの上を走ってきました。築堤は日本の鉄道発展史そのものといえます。今回、そのうち事業予定地内の北端から南端まで1.3kmにわたって、奇跡的にほぼ当時のままの姿で発見されたのです。

この築堤跡について、再開発の事業主体である東日本旅客鉄道株式会社(以下「JR東日本」)は、一部分の保存と移設のみで対応する方針を表明しました。それに対し日本考古学協会は、築堤の意義を根底から損なうものとして、JR東日本をはじめとする関係諸機関に全面的な保存を求める要望書を提出しました。しかし同社は、2月15日付の回答を見る限り、当初の方針を変更しようとはしていません。

高輪築堤跡は日本だけでなくアジアの近代化の過程をも示す、世界史的にも稀有な遺跡です。近代史・科学技術史・国際交流史における価値は、疑問の余地なく国史跡あるいは国特別史跡に相当すると私たちは考えます。JR東日本は自社の誕生の地であるこの遺跡の重要性を認識すべきであり、東アジア最初の鉄道の遺跡として、世界に対しても全体を保存する責務があります。

以上のとおり、日本考古学協会はJR東日本に対し、開発計画の抜本的見直しと高輪築堤跡の全面保存をあらためて求めます。2月16日に現地を視察した文部科学大臣が開発と築堤跡の保存活用は決して対立するものではないと発言したように、現代の技術と知恵を結集すれば、必ず解決の方法を見出せるはずです。

築堤跡は国指定史跡旧新橋停車場跡から直接続くものです。両者を将来的に一体の鉄道遺跡として活用する構想のもとに、築堤跡を高輪の新しい街並みの中核に組み込むこと。そうすることで、この地の築堤上を走る汽車を描いた明治の錦絵のように、高輪は誰もが訪れてみたい斬新な魅力に溢れる場所となるでしょう。それが、日本の近代化に取り組んだ明治の先人と未来の人びとに対する私たちの使命と考えます。

日本考古学協会は、JR東日本をはじめとする関係機関が知恵を出し合うことによって、このかけがえのない築堤跡が現地に保存され将来へ伝えられることを強く要望し、そのための協力を惜しまないことを、ここに表明します。

2021年3月2日

一般社団法人日本考古学協会 会長 辻 秀人